

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【内宮中学校】

＜第1学年：未来に残したい内宮の宝＞

校区にある建物・自然・文化・産業等を題材に、未来に残したい「内宮の宝」を探究した。導入では、普段の生活経験を振り返り、校区のよさを言語化する活動を通して、地域を自分事として捉える視点を育成した。探究活動では、①歴史②自然環境 ③産業④生活・文化の観点から各自がテーマを設定し、調べ学習に加えて、校区を歩く現地調査を1回実施した。現地では、古墳をはじめとする遺跡、和気浜や堀江海岸といった自然環境、身近な地元企業や地域で受け継がれてきた新池など校区内の多様な「内宮の宝」に直接触れ、地域の価値を実感する機会となった。

まとめでは、自分が選んだ「内宮の宝」について根拠を明確にし、スライドを用いて学級、学年内で発表した。地域のよさに対する理解が深まるとともに、情報を整理して伝える力の向上が見られた。



＜第3学年：住み続けたいまちってどんなまち？＞

「住み続けられるまち」をテーマに、内宮地区が抱える課題と魅力进行分析し、自分たちにできる行動を考える学習に取り組んだ。導入では、人口減少や少子高齢化による地域衰退の可能性を知るとともに、松山市民の意見を手掛かりに、松山市の利便性・自然・文化等の強みについて理解を深めた。探究活動では、「内宮地区が住み続けられるまちになるためには何が必要か。」「自分たちができることは何か。」という問いを立て、①地域の課題把握②課題解決策の検討（内宮らしさの活用）③自分にできる行動、の流れで考察を深めた。具体的には、公民館や地域行事への協力、NPO活動への参加、SNSでの情報発信、観光ガイド作成など多様な案が生まれた。

まとめでは、学級、学年内で発表会を実施し、互いの意見を共有した。その結果、地域の未来を自分たちがつくる存在であるという当事者意識の高まりが見られた。

